イギリスの移民選別強化政策と地域における包摂的移民支援-2010 年代以降を中心に

Local Inclusive Migrant Support in the UK since the 2010s in the Context of a Hostile Migration Environment

米川　尚樹　（同志社大学大学院博士後期課程　グローバル・スタディーズ研究科）

Naoki Yonekawa (Doshisha University Graduate School of Global Studies Doctoral Program)

キーワード　敵対的移民政策、地域の移民支援、書類のない移民、難民、イギリス

1. 研究の背景

移民の定住支援と移民の規制は、様々な移民が流入するイギリスや日本を含む様々な国における共通の課題である。イギリスでは、90 年代以降移民受け入れ数が送り出し数を上回る受け入れ国になり、近年では様々な国や地域からの移民が到来し、特にロンドンでは、3 割から 4 割が外国生まれのものとされる。ただ一方では移民の規制も発展している。2010 年代以降の保守党政権下において、様々な入国やサービスへのアクセスが発展している。

イギリスの厳しい移民の選別化・削減の研究（Griffiths and Yeo, 2021）は増加してきている。テーマも多岐にわたっており、それぞれイギリスの EU 離脱と EU 移民（Rolfe and Stevenson, 2021）、書類のない移民（undocumented migrant）（Yeo, 2020）、難民選別と支援に関する研究（Dajani, 2021）、などがあげられる。

一方で、そのような厳しい移民制限・選別に影響を受けながらも、対抗している移民支援や支援団体も注目されてきている（Mosselson, 2021）。ただし、この支援に着目した研究は、移民選別や削減の研究と比較して多くはない。また地域の移民支援において、移民選別・削減の影響がどのように具体的に関係しているかということを分析している研究はまだ不十分である。本研究では、そのような厳しい移民選別環境と移民支援を地域の文脈で明らかにする。

2. 研究目的

本研究は、イギリスの移民選別政策と地域における移民支援を取り上げる。特に 2010 年代以降の移民選別規制の展開を明らかにするとともに、地方自治体やチャリティ団体の移民支援への影響を問う。特に移民の法的地位や権利にかかわらない包摂的な支援や連携を見ていく。また地区として、移民やエスニック・マイノリティが多く、移民政策に力を入れているロンドン・ルイシャム自治区をフィールドとしている。ルイシャム自治区は第二次大戦後、西インド諸島からの黒人が多く到来し、反人種主義運動やエスニック・マイノリティの支援が歴史的に盛んな地域である。

3. 調査方法

本研究は、2022 年 6 月から 7 月の約 1 ヵ月、ロンドン・ルイシャム自治区においてフィールドワーク調査、資料調査を行った。チャリティ団体関係者 6 人、移民 3 人、地方自治体職員 1 人に半構造化インタビューを実施し、難民支援に資金を出している教会組織や、ルイシャム自治区にある移民博物館（Migration Museum）などのイベントにも参加した。

4. 考察と課題

地域における移民支援では、厳しい移民制限の影響を受けながらも、包摂的な支援をしているということが分かった。ルイシャム自治区では、全ての移民や難民に開かれているということを Sanctuary Borough（聖域自治区）というスローガンを用いてアピールし、様々な包摂的なコミュニティ政策を自治区の全体計画にも取り入れている。また自治区全体が包摂的なコミュニティへの支援を促すことで、個々の移民支援団体も包摂的支援を展開しやすくなる。

包摂的な支援は、支援されにくい書類のない移民に対しても展開されている。特にルイシャム自治区は、歴史的にも移民支援をしている団体が多く、書類のない移民支援されている。チャリティ団体だけでなく、ルイシャム区役所もコミュニティへのサポートという名目のプログラムで間接的に支援をしている。

一方で、これらの包摂的な支援は、必ずしも他の難民の定住プログラムのように規模の大きいものではない。比較的規模の小さな移民支援団体の職員によると、ルイシャムは支援団体が多いが、厳しい財政状況の中運営している団体もあり、そのような団体にとっては比較的財政的支援の機会が少ない書類のない移民などへのプログラムを持続的に行うインセンティブが働きにくい。

また支援団体間の連携を通じた包摂的支援の促進も、ルイシャム自治区では積極的に行っている。ルイシャム自治区を訪れた 6 月には、難民ウィーク（Refugee Week）があり多くの難民や移民に関連するイベントが開催されていた。他にも 10 月には、黒人歴史月間（Black History Month）というエスニック・マイノリティの人種関係や移民・難民なども含めた多様性に関するイベントが開催されている。恒例行事以外にも移民支援団体間のネットワーキングを促すプログラムや団体があり、一般の人々や団体同士の交流の機会は多い。このようなネットワーキングの機会を通じて、移民支援団体が多いルイシャム自治区で連携することで、様々な移民へ多様で包摂的な支援が期待できる。

他方、連携に関しては異なる組織間の調整の難しさに課題がある。連携に関するプログラムの予算削減の中、財政支援の競合相手との連携することの難しさが指摘されている。また連携することによって、一部の移民への支援へのアクセスがしにくくなる可能性があることが分かった。ルイシャム自治体職員は、あまりに移民支援に地方自治体などが関わりすぎると一部の利用者に忌避されてしまうということも述べている。支援利用者にとっては地方自治体の支援組織と移民取り締まり機関の区別がつきにくいこともある。

今回の調査ではより地域全体の文脈で明らかにしたが、今後は個別の支援についてもより詳細に移民の包摂と排除についてのプロセスを明らかにすることもしたい。また移民選別や地域の包摂的な支援の形は流動的であり、どのようにイギリス全体またグローバルな文脈でも考察していきたい。

5. 参考文献

Dajani, D. 2021. Refuge under austerity: the UK's refugee settlement schemes and the multiplying practices of bordering. *Ethnic and Racial Studies,* 44, 58-76.

Griffiths, M. & Yeo, C. 2021. The UK's hostile environment: Deputising immigration control. *Critical Social Policy,* 41, 522-544.

Mosselson, A. 2021. Cities of Sanctuary in Environments of Hostility: Competing and Contrasting Migration Infrastructures. *Antipode,* 53, 1725-1744.

Rolfe, H. & Stevenson, A. 2021. Migration and English Language Learning after Brexit.

Yeo, C. 2020. *Welcome to Britain: Fixing Our Broken Immigration System*, Biteback Publishing.